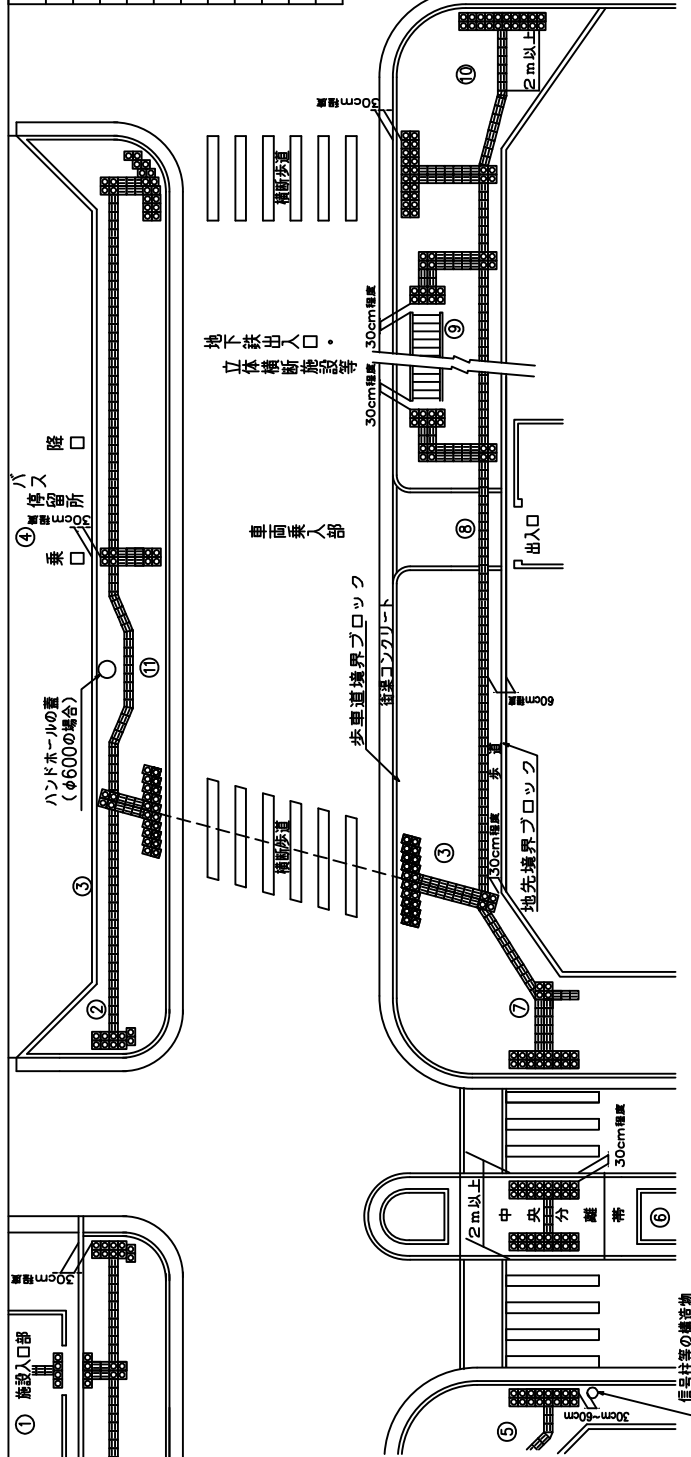


10. 身 障 者 施 設

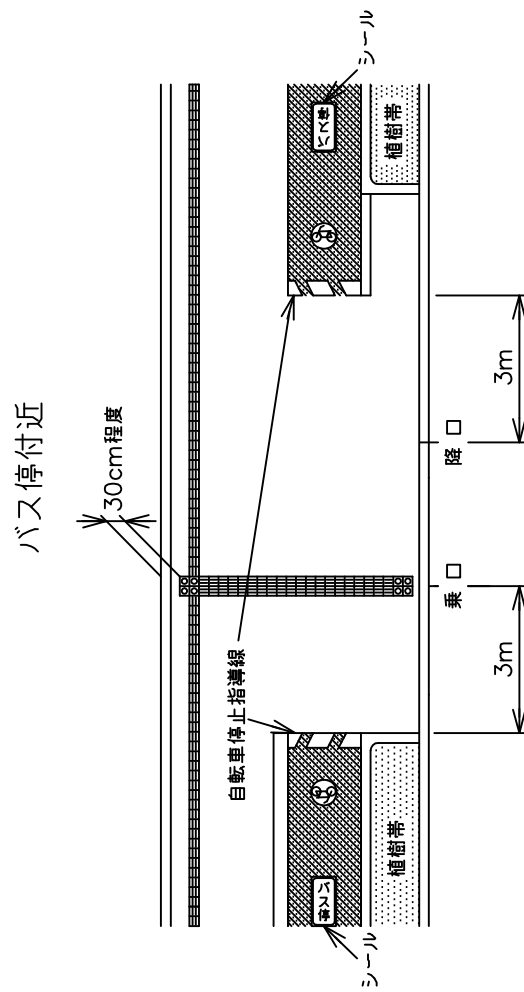
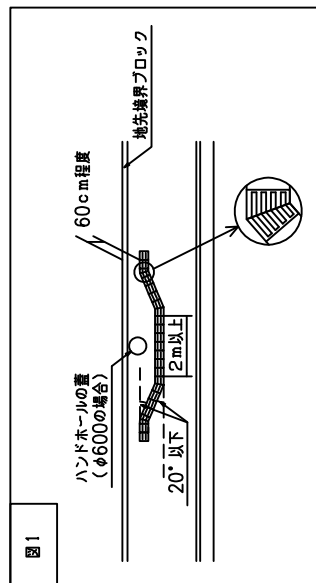
符号	名 称
①	誘導施設への入口部
②	横断歩道がない歩道巻込部
③	横断歩道が斜めの場合
④	バス停留所（乗口）
⑤	信号柱等がある場合
⑥	中央分離帯・交通島
⑦	横断歩道及び歩道方向が2方向ある場合
⑧	車両乗入部
⑨	地下鉄出入口・立体横断施設等
⑩	横断歩道口部へ屈折させてすり付けを行った場合
⑪	ハンドホールを避けるために屈折させる場合



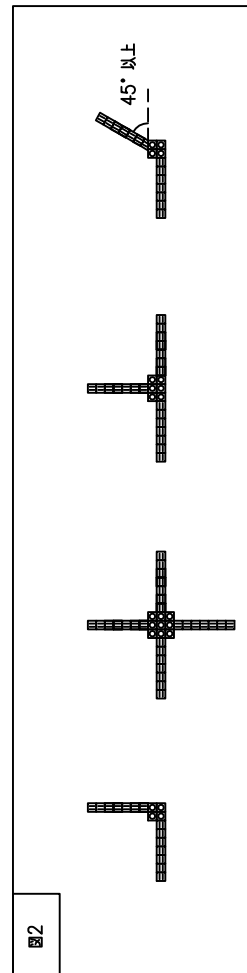
- ※ 連続的に案内を行う場合の線状ブロックの敷設位置は官民境界より60cm程度離れた位置に敷設すること。（ただし、道路状況によって、この値とすることが適切でない場合は、この限りではない。）
- ※ 地先境界ブロックまたは歩車道境界ブロックに最も近接する点状ブロックは地先境界ブロック、歩車道境界ブロックから30cm程度離して敷設すること。
- ※ 点状ブロックは、点状突起が切断されることから原則現場加工しない。
- ※ 横断歩道口部での線状ブロックは、横断歩道の歩行方向及び中心線を案内すること。
- ※ 横断歩道が斜めになっている箇所では最も近接している点状ブロックの向きは、歩車道境界ブロックに平行ではなく、横断歩道の方向と平行になるように敷設すること。
- ※ やむを得ず直線部の線状ブロックを屈折させる場合、できる限り緩やかすり付け（20°以下）にて屈折すること。
- ※ 直角及びやむを得ず45°以上の方向へ誘導する場合は、分岐点として点状ブロックを敷設すること。
- ※ 信号柱等の構造物がある場合、これらの構造物から30～60cm程度離して敷設すること。
- ※ 実際の敷設にあたっては、「視覚障害者誘導用ブロック敷設基準・同解説」（大阪市建設局平成17年1月）を参考にすること。

図 名	視覚障害者誘導用 ブロック標準図
大 阪 市 建 設 局	

やむを得ない理由により迂回する場合

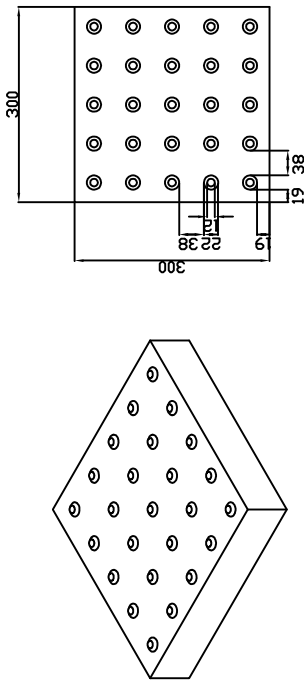


分岐点

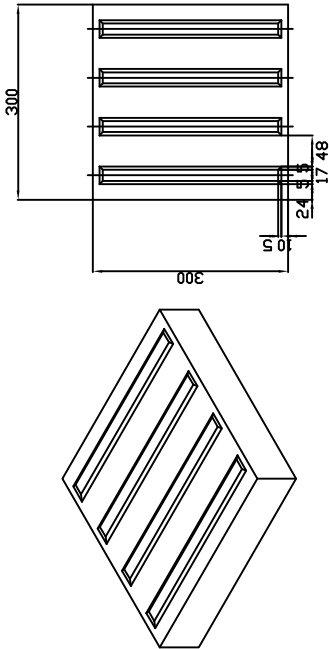


図名	視覚障害者誘導用 ブロック配列図詳細図
大阪市建設局	

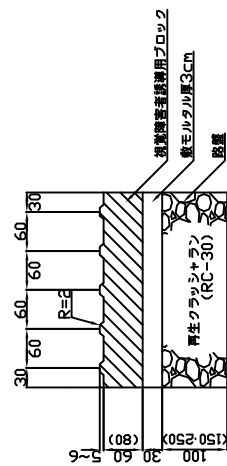
平面図 点状ブロック
(黄色を基本とする)



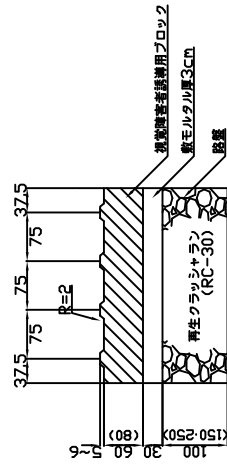
平面図 線状ブロック
(黄色を基本とする)

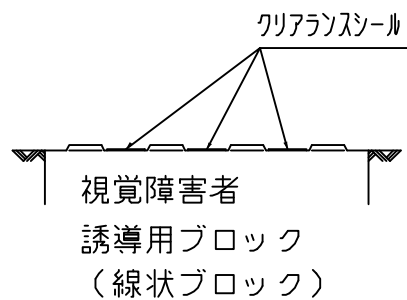
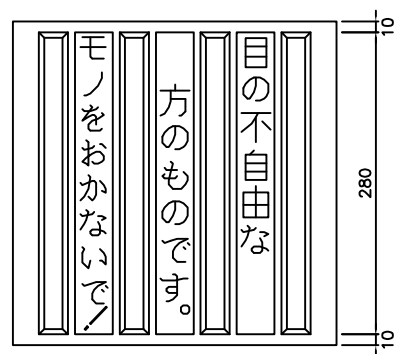
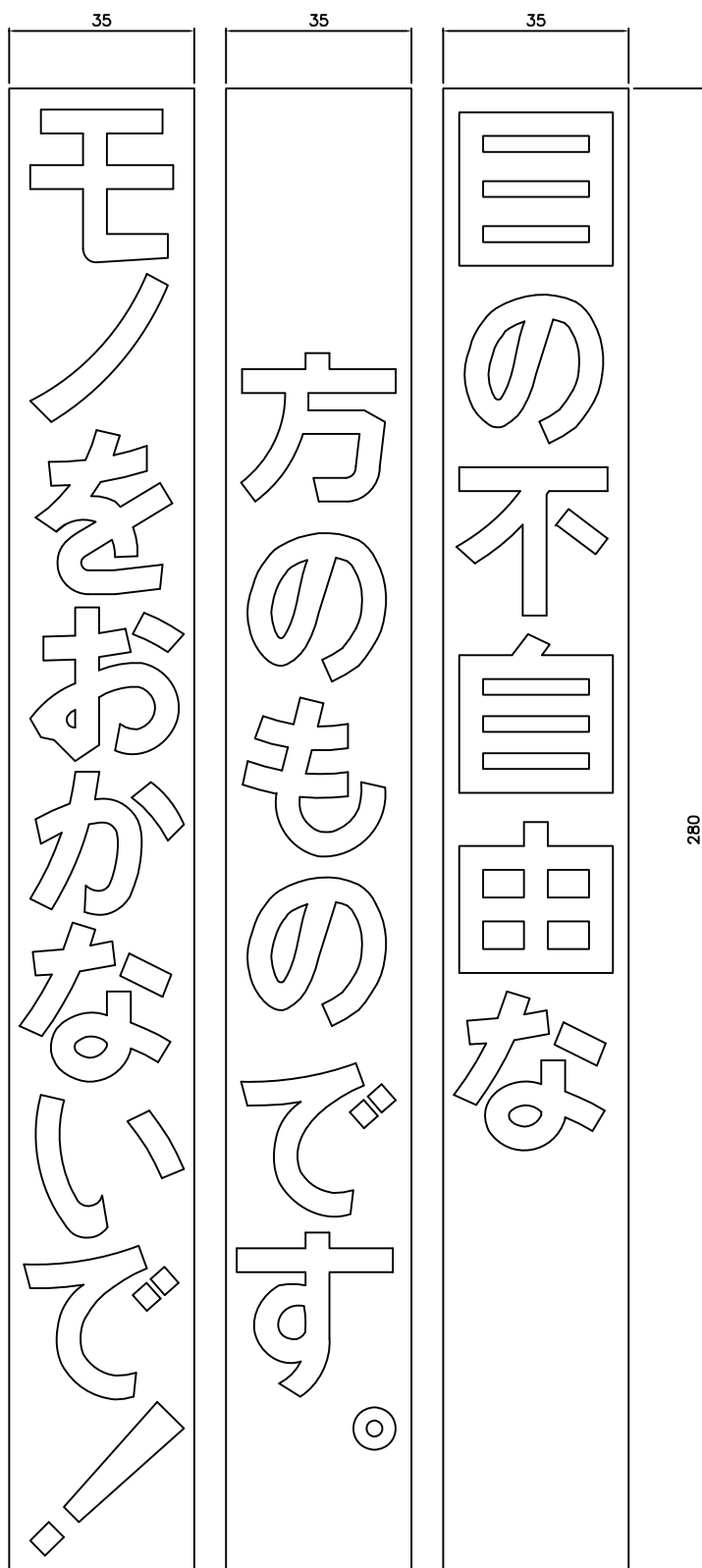


断面図 点状ブロック
※ () は車両乗入部

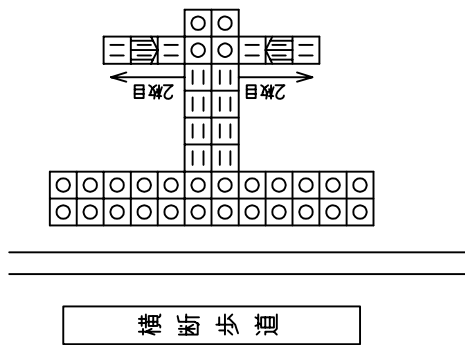


断面図 線状ブロック
※ () は車両乗入部

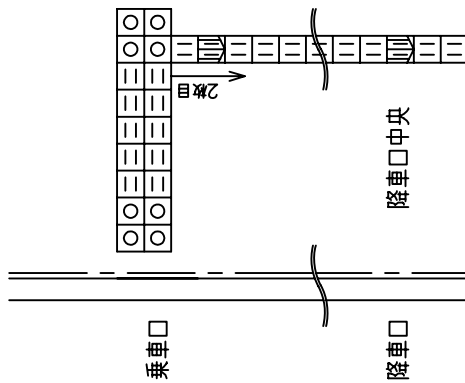




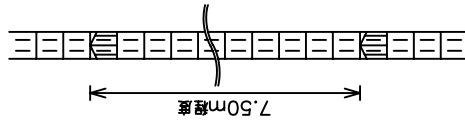
。交差点の溜り場附近



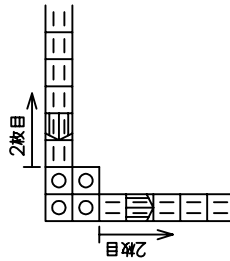
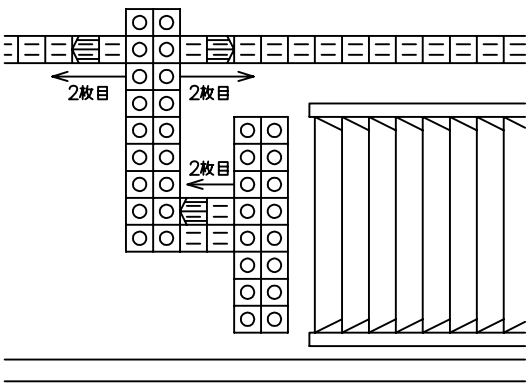
。バス停留所附近



。直線誘導



。地下鉄乗降口、横断歩道橋附近



凡例

□ 点状ブロック

▤ 線状ブロック

◻ クリアランスシール貼り付け箇所
(貼り付け方向 ←)

※ 貼り付け方向については、
交通機関から誘導施設へ
とする。

注。この図面はシール貼り付け
箇所の標準であるが、現場に
順応するものとする。

図名	クリアランスシール 貼り付け箇所標準図
大阪市建設局	